

研究に関するお知らせ

大腿骨近位部骨折術後における急性期のADLと主観的疼痛認識が自宅復帰率に及ぼす影響

医療法人社団誠馨会セコメディック病院リハビリテーション部では、以下にご説明する研究を行います。
この研究への参加を希望されない場合には、研究不参加とさせていただきますので、下記のお問い合わせ先にお申し出ください。お申し出になられても、いかなる不利益も受けることはありませんのでご安心ください。

■研究の概要

本研究は、急性期における大腿骨近位部骨折患者様を対象に、術後の疼痛の変化や、痛みに対する感じ方・捉え方(疼痛認識)が日常生活動作(以下、ADL)の回復や自宅復帰にどのような影響を与えるかを明らかにすることを目的としています。

近年、大腿骨近位部骨折患者数は増加しており、早期離床やリハビリテーションによるADL回復が重要視されています。これまでの研究では、痛みの強さとADL回復の関係二要素は多く検討されていますが、患者様ごとの「痛みに対する認識」の違いに着目した研究は十分ではありません。

本研究では、術後約2週間の急性期入院期間において、診療録(カルテ)情報やリハビリテーション評価を用いて、疼痛強度、疼痛認識、ADL能力等の経過を調査し、これらの関連を検討します。本研究により、患者様一人一人に応じた疼痛管理やリハビリテーション支援の改善につながることが期待されます。

研究期間は2026年〇月〇日(本倫理審査承認後に記載)～2027年3月31日とします。

■研究の対象となる方

以下の条件を満たす方を対象とします。

- ・当院にて大腿骨近位部骨折(大腿骨頸部骨折または転子部骨折)に対して手術を受けられた方
- ・急性期病棟に入院し、術後リハビリテーションを実施された方
- ・研究期間中に作業療法またはリハビリテーションを実施された方
- ・65歳以上であり、入院前の生活場所が「自宅」であった方
- ・本研究への参加について本人または代諾者から書面での同意が得られた方

なお、以下に該当する方は対象外となる場合があります

- ・重度の認知機能低下等により、疼痛評価が困難な方
- ・重篤な合併症等により継続的なリハビリテーション実施が困難である方
- ・その他、研究実施者が本研究への参加が適切でないと判断した方

■ご協力頂く内容

本研究は、通常の診療やリハビリテーションの中で得られた情報を用いて行う観察研究です。

研究では、以下の情報を診療録(カルテ)より収集します。

- ・年齢、性別等の基本情報
- ・骨折部位、鎮痛薬使用量等の医学的情報

- ・疼痛評価(Numerical Rating Scale:NRS)
- ・疼痛に対する認識や捉え方に関する評価(Pain Catastrophizing Scale:PCS)
- ・ADL評価
- ・在院日数、自宅復帰の有無 等

収集した情報は、個人が特定できないよう匿名化したうえで解析を行います。また、研究成果は学会発表や論文等で公開する場合がありますが、個人が特定されることはありません。

■研究計画書等の入手・閲覧方法・手続き・手続きにかかる手数料等

希望に応じて個人情報保護や研究の独創性に支障のない範囲で研究計画書を閲覧することができます。下記のお問い合わせ先にご連絡ください。

■個人情報の開示に係る手続きについて

本研究で収集させて頂いたご自身の情報は希望に応じて当院の規定に則った形で閲覧することができます。下記のお問い合わせ先にご連絡ください。

■お問い合わせ先

医療法人社団誠馨会セコメディック病院

所属部署:リハビリテーション部

職名:作業療法士

氏名:仲田実生

電話番号:047-457-9900(代表)

■掲示場所・交付場所

- ・リハビリ室への掲示、希望者に交付
- ・HPへの掲載